《第90回》令和二年十二月の作品

〈十二月十一日（金）通信句会〉

ウーバーイーツ走る背中に冬夕焼　（貴美）

あれとこればかりの会話掘りごたつ　（孝昭）

秩父夜祭コロナよ去れと二千発　（奉男）

冬晴の信濃は山の美しき　（一江）

一合の酒で温もる冬至かな　（正佳）

大正は昔となりぬ年の暮　（清助）

新行徳橋より

富士の嶺くっきり見ゆる大晦日　（平六）

ぼこぼこと出汁の染み込む大根かな　（前歩）

亡き母の絵本にもこの花八つ手　（正雄）

八重山の戦跡に立ち冬迎ふ　（芙紗）